

いわちゃん ポスト

岩井やすのりの県政かわら版

千葉県議会議員



1970 年（昭和 45 年）生まれ 県立君津高卒
専修大卒、早稲田大学院 政治学研究科修了

事務所連絡先 Fax : 0476-36-7802

メール : iwai.yasunori@outlook.jp

〒2701515 印旛郡栄町安食台 2-26-23（栄町役場前）



YouTube
もご覧ください



ヒューリック大型物流施設 進出経緯とその影響

成田市下福田に建設が進められているヒューリック国際物流施設。全国初となる「地域未来投資促進法」の弾力的活用が注目される一方、県道の大型車両規制解除など、道路環境の変化に心配の声も上がります。

●通常、農振除外などの手続きで準備に数年

印旛郡栄町から成田市へ向かうバイパス道路沿いで、2029 年 3 月の稼働を目指し、建設が進められているヒューリック社による大型物流施設。この事業用地の取得にあたって注目されたのが、全国初となる「地域未来投資促進法の弾力的活用」との手法です。



現地は山や田んぼが広がる土地で、現にヒューリック社が確保した約 46 ㌥のうち、約 13 ㌥は農地だと言います。通常、農地を事業用地に転用する場合、「農振法」の農振除外（農業用地からの除外）手続きが必要で、特に農林水産大臣との協議が必須となる 4 ㌥を超える土地の場合、数年単位の準備期間を要することとなります。

そこで、千葉県と成田周辺 9 市町（成田市、富里市、栄町など）は国に対し、「4 ㌥を超える大規模な事業を進めようとする場合、農振除外や農水大臣協議の手続き、許可にどれくらいの時間がかかるか予測しづらく、進出を予定する企業が二の足を踏んでいる」として、国家戦略特区の指定を求めてきました。結局、同指定は見送られたも

の、特区の有識者ワーキンググループで「何らかの措置が必要」とされ、その後に農水省と県が協議。「地域未来投資促進法の弾力的な活用」として、成田空港周辺 9 市町に限り、要件を満たした土地で農振除外等の手続きを省略することが可能となり、今回のヒューリックの進出に至ったというわけです。

●県道成田安食線 大型車両規制が年度内に解除

一方で、ヒューリック物流施設の開業を見込み、県道成田安食線にて実



施されている、大型車両の通行規制が今年度内に解除されることが明らかとなっています。

栄町や印西市を含む、国道 356 号、6 号、16 号、296 号などで囲まれた地域（上図の斜線部分）は、これまで 50 年にも渡り、大型貨物車両の進入を禁止する「北総規制」がかけられてきました。今回の規制解除により、地域への企業進出による地域活性化が期待される一方、大型貨物車両の流入による道路渋滞や、荷待ちする違法駐車車両の発生などを懸念する声も上がっています。

成田市下福田への大型物流施設の進出により、深刻な道路渋滞や大型車の違法駐車などの負の影響を負うことがないよう、道路管理者である県への対策強化を求めてまいります。

緊急
対談

石井参議院議員と北総地域の課題を議論する



千葉県議会議員
岩井 やすのり



参議院議員
石井 準一



石井準一・参議院議員は、自身の議員生活において最も深い交流を続けている国会議員である。今回は参議院を訪ね、激動の北総地域について対談した。(抜粋)

●空港強化の経済効果 9市町で1兆円超↗

岩井 先月の25日、成田空港は3本目となるC滑走路新設、B滑走路延伸の本格工事に着手しました。これは、年間発着能力が増えることで成田空港の存在感が高まるにとどまらず、北総地区など空港周辺地域の発展も期待されるところです。

石井 そうですね。発着回数50万回となった際には、旅客数7,500万人と2倍、貨物量は約300万トンと1.5倍となる見込みです。全国の経済波及効果が10.4兆円に上るとされる中、実は空港近隣の9市町の経済効果だけでも、現在比1兆円超押し上げるものと見られています。

岩井 いわゆる「成田空港の更なる機能強化」の効果を最大化していくためには、地域での取り組みも欠かせないところかと思います。

石井 はい、関連産業の産業用地の確保や魅力ある観光資源の創出、地元産農産物のさらなる育成などは、周辺自治体や民間事業者、生産者など、みなさんのご協力があるってのものです。

加えて、成田エアポートシティ構想は千葉県、北総地域のエンジンたるプロジェクトになるものです。空港を基盤とした周辺自治体の理解を得た上で、広域的なまちづくりにも取り組んでいきたいと思っています。

岩井 最後に、関連する道路整備では、圏央道の大栄～松尾横芝間の予算確保に、石井さんが大きく尽力されたことは知られているところですが、ぜひ、北千葉道路の印西～成田間、鎌ヶ谷以西の区間についても、早期着工、早期完成に向けた働きかけをお願いいたします。

●DC立地に関する法的規制を設けるべき

岩井 こちらはぜひ、石井さんに関心を持ってもらいたいのですが、実は、「データセンター（以下、「DC」）のまち」と呼ばれてきた印西市が、そのDCの問題で揺れています。

北総線の千葉NT中央駅北側にあるイオンモールの駐車場跡地に、高さ52mものDCの建設計画が持ち上がっています。これは隣接する15

階建てマンションよりも10m近く高くなることに加え、DC施設からの排熱、CO2排出、電波障害等の周辺環境への大きさから、住民から不安や困惑の声が広がっているんです。

石井 地元の印西市長が「ふさわしくない」との意見を表明したなど、話はよく聞いているところです。既に知られているように、DCの法令上の位置づけは「事務所ビル」であり、法規制の網をくぐり抜けてしまう現状は大きな課題であると捉えています。

岩井 印西市内では、ビッグホップという商業施設でも、すでに同様の問題が起きています。市中心部のマンションや商業施設に囲まれているような場所に、規制なく建設できてしまう現状は看過できないところで、DCの位置づけを明確にした上で、立地に関する法規制を設けるべきだと思います。

石井 これは印西市のみならず、全国でも発生しうる問題であり、課題解決のため、必ずしやその研究を深めたいと思います。